

12. エイズに対する意識調査およびカウンセリングの意義

高木 実

(ダイヤビルクリニック)

日本におけるエイズ蔓延化防止の為の活動として、在日外国人就労者特にいわゆる風俗営業に従事する女性を対象として、1722例に検査を施行し、1例に陽性を認めた。同時に彼女達へのアンケートによりエイズそのもののみならず日本の現状にも正しい知識が欠けていた。現在の行政機関および医療機関の取り組みの中、これらのハイリスクグループに対する取り組みについて一考した。

13. SLE 患者の精神症状と SPECT による脳血流所見の関連について

日野 俊明 (北深谷病院)

児玉 和宏, 岡田真一, 山内直人

小松 尚也, 池田智昭, 坂本 忠

佐藤 甫夫 (千大)

高林克日己, 細田泰史 (同・二内)

内田 佳孝 (君津中央)

有水 昇 (千大・放射線科)

篠田 直之

(千葉市原療育センター)

森山 稔弘 (船橋北病院)

今回われわれは、ループス精神病患者20例に対し、画像診断の一つとして¹²³I-IMP-SPECTを施行した。その結果、精神症状と脳血流所見について次のような知見を得たので報告した。①SPECTによる脳血流所見は、ループス精神病患者の精神症状と関連した可逆的な脳内の血流の変化を反映している。②SPECTによる寛解期の脳血流所見は、ループス精神病患者の精神的予後の良否を表している可能性がある。

14. ハンチントン病の局所脳血流量局所脳酸素消費量について

——¹⁵O-PETによる検討——

小松 尚也, 児玉和宏, 佐藤甫夫

(千葉大)

森山 稔弘 (船橋北病院)

北林 香織 (中村病院)

宮川恵美子, 吉川京燦, 有水 昇

(千大・放射線科)

ハンチントン病の親子例について臨床症状と頭部 CT

検査を経時的に観察した。また¹⁵Oを用いたPETにより得られた局所脳血流量のイメージングと比較・検討を試みた。2症例共に歩行障害で発症し、次第に舞踏病様運動や痴呆が出現・進行していった。頭部CTでは2症例共に、両側の尾状核萎縮を呈していた。経時的な観察に於いては、2症例共にPET上の局所脳血流量の変化が患者の臨床症状をよく反映すると思われた。

15. 双極子追跡法によるてんかん性棘徐波複合の脳内電源の推定

伊藤 寿彦, 岩佐博人, 柴田忠彦

古閑啓二郎

(千大)

双極子追跡法を用いて、局在関連性てんかん症例の焦点性棘徐波複合の棘波・陽性波・徐波の各成分毎に脳内電源の推定を行った。三成分の等価電流双極子は、近接した部位に推定された。棘波・陽性波成分のベクトルは、逆の方向を示した。以上より、各成分は、限局した領域の電気活動を反映し、また、棘波・陽性波は、おのおの興奮性、抑制性電気活動に関連し電気的拮抗関係にあると推察された。

16. キンドリングてんかんモデルにおける Gi/Go の関与

——百日咳毒素によるADPリボシル化反応の変化——

清水 栄司, 岩佐博人, 菊池周一

渡辺かおり

(千大)

長谷川修司

(千葉市環境衛生局保健衛生部)

てんかんの病態生理におけるG蛋白質(特にGi/Go)の意義を解明するため、扁桃核キンドリングラットにおける百日咳毒素によるADPリボシル化反応の変化を検討した。その結果、最終全般発作後24時間の時点で、キンドリング群の両側海馬および大脳皮質におけるADPリボシル化反応が、対照群に比し、著明に増大していた。これらの結果から、発作発現の基盤に、Gi/Goの関与する情報伝達系の変化が重要な役割を果たすことが示唆された。

17. 千葉県精神救急医療センターにおける中毒性精神病症例について

——覚醒剤、有機溶剤を中心として——

大野直規

(千葉県精神科医療センター)

千葉県精神科医療センターは、開設以来精神科救急医